

東鞍・上高地紀行

平成7年7月22-26日

7月に入って冷雨の続く年だった。7月1日電車やバス時刻をしらべ、次は旅館だ。先ず上高地の帝国ホテル泊の問題だ。始めは11日頃に出発したかったが、電話を入れては仲が悪い。所が幸いなことに24、25日があいてくるという、コースはきめてある。高山→平湯→畳平(ここ45分かな、高山植物のある所は近いかで充分。ここからエコーラインを降りて東鞍高原へ行って一泊。次は白骨温泉で一泊。ここからスーパー林道で中の湯に出て、上高地に入る予定だ。どの旅館にとまればよいかわからん。手当り次第に鈴蘭の七ノ木東鞍、白骨には脊藤別館がとれた。やれやれこれで行ける。

長い間歩かなかった。食事は薬をのむために定時にとるが、朝食たべたら寝る、昼食とつたら寝る、夜はテレビ。外へ出るのは月2回の医者通いと床屋だけ、足の筋肉はクタクタだが、山は別だ。もう年だ。これが最後かも知れぬ。又町の道はためたが、山は歩かぬかも知れんと考えて出ることにした。

天気予報は出発予定日の22日は未だ雨と天気、24日からは大平洋高気圧におおわれるらしい。

だから小雨の中を金沢駅に向う

平湯は雨がやんでいったが、山はガスの中、昨日はガスで畳平行きは運行中止だったが、今日は出るという。私は晴男がついてくる。畳平は濃くガスで周囲は全く見えず、風ささ吹いて体が濡はされぬようになる。45分の時間があるので、ナイロンの雨具をきて、勝手知ったバスミナルの建物の横の段を降りる。あつたあつた

石段

ハワサンイ4ゲとジョージョーバカマが、だれどそれだけ。

とどにかくそれと引返して、今夜はエコーラインを降る
バスにのりこむ。天候が要^いの^い本人が^い少く^い10人程で登車

する。始めは矢張りガスの中であつたが、大分降^頂りた^意お、意^く
に^い集^い鞍^い高^い原^いた^いけが^い聖^い間^いから^いスポット^いライト^いと^い当^いて^いた^いよ^いう^いに^い光^いか
い^いや^いて^いみ^いえ^いた。も^いて^い高^い原^いに^いつ^いた^い時^いは^い晴^い天^いで、^い強^いい^い日^いざ^いし^いが^い
暑^いか^いつ^いた。

ピーホロとはアイヌの古語で美しい土地(美幌)という意味
だそうだ。中流の下位のホテルで不潔ではなかつた。ロビーは
狭いが、コーヒーと煮込み器、濾紙が置いてあり、好きに入つてのめ
という具合で面白かつた。Hotelの周りは白樺林で、夕日に
白く映えてキレイだつた。肉は馬刺し、魚は鮭の塩焼き、結構
なものである。鈴蘭の観光センターからバスが着いたのが午後3時20分
白樺並木の道とトラトラ15分歩いたが、螢袋(色が濃い)・ツツホ草と
おきて、沼の仲間が白く色とり、木陰はすばい風で矢張り高原
(1600m)は気持ちよくなつた。横には立派なサクリソードがあり、若
者がスイスイしている。

さて明日は白眉へ行くのだがバスは1601号一台しかないという。

そこで私はバスとタクシーで牛溜池と一瀬牧場をまわり、そのま
白眉まで行って参ることにした。

7月23日朝ホテルを出て観光センターの横のタクシー集場に行く

逢古さんが良かった。高山植物に詳しい方だつた。牛溜池で見たもの
は先ずツツガシラの白い花が群生していた。林間に入ると、麦ゆづた
ものにはエライ草(ギンレイソウ)が水苔の上にボツボツ花を咲かせている。
池には水生植物の葉が深山浮いていて、花をつけているから名前は

知れぬ。水バコウは葉たけ、コゼンタケバナ、カマツ草、ヨモギ
類、クガイソウ、レダツツジ、皆蓮ちゃんが教えてくれた。

30分40分かけて一周し、次は一瀬牧場へ行く。二日レダツツジ、
~~カマツ草~~ 牧場とは玄之白樺が多く、スズノ牧場とは趣
きが異なっていた。ドアを閉めたり見逃すアツハイソリ早速
めると一騒ぎもあった。

再び観光センター前にもどり、今度はスーパー林道に入って白骨へ
向う。途中トンネルが一つあって、これをぬけたら、7-8組の
虫屋が柄の長い捕虫網を持って道に立っている。帰って構橋
場君にきいたら珍種がいるとかで清君も一交り行ったことがあ
る。しかし道を出てくるとは古くから、早は一寸林に入らぬはならん
といふことだった。

眺望がきかない林の中、しかし立派な林道は15分で白骨
についた。午後1時頃だが、部屋に入ってくる。

先ず昼食と露天風呂だ。白骨は深い湯沢りに沿う道にあって旅
館が並んでいる。10分程旅館で借りたサンダルをはき道と降って
煤香庵へ行く。ここで食べた温泉粥は最高だった。
笑天

所が露天風呂は団体客が来るからと入れにくく、菅原別館に
取ってかえり、内風呂にする。泉質は白濁し、単純硫化水素泉という。
湯量が豊富で正に温泉だ、皮膚病にきくという。靴と私の湿疹は
スババになつた。又知入ると痒い足指を引かぬという。

部屋へ帰って、窓をあけ、鼻を窓から出すと、真によい香がする。
始めこれは森林の香かと思つてゐたが、やはり温泉の香がミツ
クもっているのだ。何べんも鼻をつき出して深く息を吸って楽しんで
いた。かき蜂と小鳥の音、それにカシカ(?)の音、深山の湯はよいものだ。

ホテルの夕食は山梨の塩やき、馬刺し、鴨肝に山菜のテンプラ、日本酒一合
7月24日 春日 白骨のバス停でみた所はバスは直ぐ梓川に下つて
深渡に到り、そこから島々→上高地の幹線道路に入る事になって
いる。私は白骨からスーパー林道を領線を走り陣守峠への
道を通りたかった。安房トネルはどうなっているか、焼岳がすぐ見える
のではないかの期待感もあったのだ。しかしこの道はバスが走らない
という。仕方がない。タクシーで、これで上高地に入ろうというわけ
だ。

よかつた。左側に軍靴岳が見えないかと思っていたが、これは
駄目だったが、右側に霞沢岳がずつと見えて、霞沢岳って
こんなに美しい山である事を始めて知った。良いコース選定をした
ものだ。安房峠から中の湯に降りれば12ヶ所のヘアピンを通過
わけだが、白骨からの道はその上の方足ヶ所目位のカーブの所に
出ていた。ここからは昔の道を降りわけだが、中の湯のホソ手前に
トネルの出口の工事場があった(軍湯側は大滝の一寸下に入りが
あった。) トネルが出来たら今までの道は村道になるのだという。
奈良の大雨でトラックが平湯→安房→松本へ抜けるコースとなり、
今は今は仲々の交通江一帯とのことであった。

朝10時に白骨を出たが、正午前に帝国ホテルについてしまった。
上高地：始めて入ったのは大学1年(昭和12年)の夏だった。富校出身
の中井宗吉君と2人。軍の荷物(江戸は毛布の手作り)を箱の肩まで
上げたが、無駄と知って上高地にお入り、穂高への縦走をして岳沢をお
り、小梨平でキャンプした。この時は島々から徳本峠を越えて入った。
南岳の領線と御来迎にあつたことが忘れられぬ。

そのあと、松永氏と一緒に、又大学の同級生と、大野から縦走して一回

あとはプレさんと一緒に歩いて、プレさんは明神池まで、私は小学4年位の長男貴之と焼岳にのぼった。以来は母さんと平成元年に帝國ホテルに二泊、明神池廻り、帰りに草を採って金沢まで持参して恐る恐る食べた(8月下旬だった)

Hotelの外観は前と一様、赤い重厚な建物で、2003年頃に改造したというのは和食コートを増築しただけとのことである。玄関前のロープウェイの前にはあったベニ色ゲシのワコは消えていた。

空は青空、穂高、焼の上は白雲でみまかくれしていたが、チェックインして荷物をあずけ、ラウンジでコーヒー飲んで、午後は中瀬園地を通り、田代、穂高橋を渡り、上高地温泉ホテルに向う。こゝに植物園があり、ニフコキスゲが咲いていたと、白骨から来たタジマの運ちゃんに聞いていたので先ずは偵察だ。見た。2003年欠けた花だ。ついでにウェストンの碑まで行って、戻った。部屋のキーもどけて room に入る。穂高、焼の見える方で、ベランダ付き。さすが帝國ホテル、バスルーム、バスロープ、浴着もついて清潔そのもの、一泊4万円(一人2万円、都庁代だけ)のことはある。バスに入りロープをつけてベランダに出る。岩燕がとび、ウグイスが鳴き、鳥が一杯、私は一寸失態を以て、前をはだけ、焼にネケンチンを見せてやった。焼さんは小噴火煙を上げて欠落おろしているだけだが、息子も初めての上高地だというのは、たゞ股間にくすぐまたま、主人の心の昂りを知るや知らず、平然といた。主人は初めての高山のオールヌード二人旅が出来るのも帝國ホテルならではとエツに入っている。

夕食は6時に頼んで、ダイニングルーム、1万円のフランス料理だ。

1万3000円コースは鮎と牛肉のセブスキだが、存羊と鹿のオカが凄まじくおいしそう。初日は白ワインをど右が余ってしまい、三日目は山ぶんと

だけにした。山3600⁷は山頂から作られたらしいが、高度の半分も別、私共はこれだけで充分であった。

分量は充分で又多からず、さらに色々な例のヤネクレスをつけて年配者の中で山服等は私共だけだったが、山の中のホテルではとがめられることもなかった。

夜は星空だ。スターダストの光る位の星が満天をうめつくし、飛行機が2台走っていた。

二日月の夜は一片の雲もなく、中天には北斗七星の北極星が輝いていた。天の川やオリオンは屋根の反対側に見えなかった。

とにかく空がこんなにキレイなところは始めての経験であった。温度室外で夕方19°C 朝14°C (室内は36°Cだった)

7月25日。この日は大正池田代池の周遊コースだ。Hotelを出て田代橋、そこから左に折れて遊歩道に入る。道は整備されて、湿地には木橋が作られている。実は帰りはバスターミナルまで行って、明日のバスの整理券を貰い、中食をとるつもり。午前10時頃出発したが、案内書には40~50分の所我々は花をみたり、photoをとったり、足はくたばりたいて4時間かかってしまった。我々のような老人にははいないが、子供連れの若夫婦や新婚や中学生の団体やで賑やかなことだ。

沢山のお花があった。皆こに書かされたはいかぬが、オウゴン、ニクキスゲ、キツクネ、コゼンタハナ、イソイソウ、水バコウ、ユキササ、etc.

上高地へ来た目的は全部果すことが出来た。

7月26日 9時55分発のバスにのる中だが、ホテルからバスターミナルまで歩く気がなく、近いかタフリーをこはす。

バスの中で考えた。バスは平湯に11時につく。平湯登高山行13時
発のれば、帰りの高山線、北陸線は指定もなくてある。
11時から13時までタクシーだったら車輪に往復出来る筈。切符の好
天気。もうは素直な車輪だ。タクシーに行ったら行ってくると
いうので飛び出した。

白山は白雲の中、橋は葦が草の中にみえるたけだったか、
途中で白山4トリを撮る。

今日は桔梗が系、バス道の横に一面黄の花の窪地があった。4-5
人のカメラマンが入っている。計1キバいた、1リサ、4ケもあつたが、皆
は黒百合だった。母は生れて初めてのこと、小生は大学時代の
白山で見た1リサ、光はその反対側のハイソンのかやりにキバナ、1リサ、
白の花をのけたナカマド、清純な色だった。

そこから車でも降りた所のカケの上には女王コマクサ、~~ムシ~~
トリスミレ、これは私も始めて目にするものだった。

タクシーだったからこそ、達ちゃんも場所を知っていた。先に教えて
くれたからこそ、支収かたであった。イカルマなし

平湯へは13時着いて、バスに急分のれる時間帯があった。
組Vの芝は上高地バスターミナルの芝は同様とてます。
かた。母は野沢菜の漬物を買った。家へ帰って
食べてうまかった。以上

走書で充分意をつくせないが、良い山行きだった。もう一度行って
みたいがもう駄目だろう。この5日間を繰返し思い出して、楽しむことに
するが、光はこれに貴や伊早子さんのおかげ、孫達も元気だし、成
績は良いし、心の内に心配やわだかまりが無いからこそ、皆
に感謝する。又良い女房をもつた。

野麥 a=2

栗鞍高原を走るE5-11の南に野麥街道が東西に走り岐阜県から長野県に入る重要街道となっていた。県境には1672mの野麥峠があり、女工喜笑で知られている。この野麥とは何だろう。鈴蘭を案内してくれた土地の蓮ちゃんの話だが、道傍には笹、然世が一面に繁っていたが、斬りかきや穂み払いの跡がつかみ出していて、これを(木豆)指でつぶしてみると白いゴマ粒や半分位のものが玉っている。笹の実である。今は7月だから未熟だが秋にはゴマ粒位に太って食べられるようになる。この笹の百姓は米不作の日芋の代用食として食べたものと言う。救荒食物であったが、笹だから毎年花が咲くわけだが、米の不作を天候不順の時は不思議と花が咲いたという。野麥という言葉から色んな昔の話に涙を覚える。

7/22 (土)
 宝沢 735
 白雲寺号
 加賀野号
 富山 814.820
 8号車
 0266号
 高山 944.1120
 平湯 1220 1300
 宝沢 1745
 東野 1430
 バス
 集鞍高原 1519
 集鞍(0263-93-2728) (-泊2食 9300円 x 2)
 集鞍野前之降、右へ7分歩く

7/23 (日)
 集鞍高原野前之降
 松本鉄道
 白骨温泉 (101本155円)
 1621
 春藤別館 (0263-93-2244) (-泊2食 15000円 x 2)
 バス停に歩いて100~200米

7/24 (月)
 白骨温泉 905
 バス
 上高地 951
 帝国ホテル (0263-95-2206) (右石さん) 2201
 10日前に確認の電話は来ること
 5日前には電話は来ること

7/25 (火)
 上高地散策
 帝國ホテル (2人部屋にて1泊2人で4万円)

7/26 (水)
 上高地 955
 平湯 1100.
 1300
 高山 1503
 0267号
 富山 1629.1639
 5095車(搭乗) 2-10-1番車
 金沢 1716
 1355

7/27 (木)
 平湯 1315
 1420
 1440
 1521
 1539
 1601
 工事地
 前川渡
 木戸

使った現金	131,500円
カード(帝ロホテル)	156,600円
交通公社	41,600円
<hr/>	
奇	329,700円

旅館支拂内訳

白骨斎藤別館	33582円
七ヶ井温泉	20280円

タクシー内訳

鈴蘭牛溜、一ヶ瀬牧場、白骨	8000円
スーパー林道(白骨-上高地)	9000円
平湯、乗鞍温泉往復	14000円

を含む